

一般助成(昨今の社会情勢により生活に困難を抱えている若い世代〔親子を含む〕への支援)

「コロナで孤立した多胎家庭への オンライン包括支援」事業

厳しい子育て環境にある多胎家庭を支援するために オンライン教室による個別相談や情報提供を実施

子育て・若者世代を対象に地域社会とつながる場づくりを行い、子育てへの負担・ストレスの軽減を図るとともに、中高生向けの学習支援を通して、諸外国に比べて低いとされる子どもの自己肯定感向上に寄与することを目的に活動する団体が、新型コロナで相談場所などを失った多胎家庭を支援する活動に取り組んだ。



オンラインによるプレパパママ・多胎親子教室や出産・育児に関する相談会などを開催

情報不足や孤立しやすい状況にある 多胎家庭を支援するための活動を開始

同時に2人以上の妊娠と出産、育児を担う家庭のことを「多胎家庭」というが、晩婚化に伴い、その割合は増えている。多胎家庭は妊娠期から情報不足になりやすく、出産後は外出困難や育児困難から孤立しやすいという課題がある。子育てにおける不安や負担の軽減を図ることで、親と子どもの良好な関係を育むための手助けをすることを使命に様々な活動を続けているNPO法人「DAKKO」では、今回の新型コロナウイルスの影響により、相談できる場所などの居場所をなくしてしまった多胎家庭が多くなっていると感じるとともに、行政の窓口相談などに参加できない妊婦さんが産前産後の相談ができるよう、オンライン上

で個別相談、悩み相談などを行い、子育てのストレスや負担の軽減を図る必要性を感じていた。

そこで、同法人では、毎週3回ほど、参加者同士のコミュニケーションや多胎家庭の育児に役立つ情報の共有を目的として、多胎家庭に関するオンライン教室を開催することにした。具体的には、多胎家庭が参加するプレパパママ・多胎親子教室、外出が困難な多胎家庭が行政窓口などに直接出向かなくても子育て支援員に個別で出産や育児に関するオンライン相談などのほか、忙しくても簡単に作れる料理の紹介やリラックス効果のある色を使ったアクティビティである色育教室など幅広いテーマを用意した。Zoom以外にも音声SNSアプリケーションの一種であるクラブハウスを利用するなど、参加形態を多様化することで、

幅広い層の利用者に参加してもらうための取り組みを行った。

オンラインでの支援と対面による支援を 望む方々に適した支援のあり方を模索

オンライン教室での個別相談件数は当初、2〜3名で推移していたが、その後、毎月5名程度増えたほか、クラブハウスを導入したことで、コミュニティカフェには多いときで100名近くの参加者があった。その一方、オンライン教室の開催と併せて予定していた対面型の居場所作りや病院や家庭への直接訪問などによる支援活動が新型コロナウイルス感染拡大の影響により、病院や家庭サイドから断られたことで、開始することができなかった。また、従来から別事業として運営している子育て広場に参加している方々の参加を想定した企画を考えていたが、そうした方々とはオンラインではうまくコミュニケーションがとれず、オンライン

で支援を展開する難しさを痛感した。

しかし、緊急事態宣言が緩和された2021年11月頃には、公園に多胎家庭同士が集まり、対面形式で一緒に話したり、交流したりする場を設けることができ、助成期間以降でも継続して多胎家庭支援が行えるような環境を整えることができた。同法人では、オンラインでも支援を有効と思ってくれる多胎家庭と、対面や直接的なやりとりに価値を置く多胎家庭とで支援の提供方法を差別化できるよう、助成事業終了後も対応する必要がある。「今回の試みは多胎家庭の当事者のみならず、そうでない方々に多胎家庭における育児の困難さや、多胎家庭を支援することの重要性について考えるいい機会になったのではないかと。こうした取り組みを積み重ねることで、多胎家庭が少しでも過ごしやすい社会になるのではないかと考えています」と、同法人では話している。



参加者に好評だったオンラインで行われた料理教室

助成団体: 特定非営利活動法人DAKKO

<https://dakko-kosodate.com>



多胎家庭当事者のみならず、一般への啓発にもつながりました

POSCの助成により、双子ちゃん、三つ子ちゃんを育てる親御様への支援を実現することができました。子育ての負担がまだまだ社会全体で認知し切れていない状況下、多胎家庭と単胎家庭の育児ストレスの違いなどがなかなか伝わらず、苦勞していたなか、今回の助成を通じて、多胎家庭への直接的支援のみならず、一般の方々をも巻き込んだ啓発活動につながることができました。本当にありがとうございました。

特定非営利活動法人 DAKKO
代表理事 横張 寿希さん